



技術開発本部 鉄鋼研究所 表面処理研究部 主任研究員

金藤 泰平 (2004年入社、物質エネルギー化学専攻)

社会のニーズをとらえ 高いビジョンを持って 研究開発を進めたい

大学では有機合成や触媒を用いた化学反応などをテーマに研究し、オランダへの留学も経験した。

「学生時代からグローバルに活躍する企業での研究を志望していました。就職活動は企業の真の姿を見られるチャンスだと思い、さまざまな企業を訪問しました。その中で新日鉄は互いに切磋琢磨できる人材が集まってくることに魅力を感じました」

最初に配属された君津技術研究部製鉄所内に立地する研究開発部門では、表面処理鋼板の化成処理にかかわる研究に携わり、各種AV・OA機器に求められる導電性や耐食性に優れたクロメートフリー電気亜鉛めっき鋼板「ジンコート[®]21」などの開発を行った。

「上司の指導を受けながら試行錯誤の繰り返しではありましたが、入社2年目で商品を世に送り出すことができました。このとき、お客様と製造現場を行き来しタイムリーな情報を入手することの大切さを実感するとともに、確かな技術に裏打ちされた情熱が人を動かすことを学びました。この体験で研究者としてやっていく自信が深まり、また実践的な知識や技術は私の財産となっています」

鉄鋼研究所へ異動後は、同じ表面処理鋼板でも塗装鋼板(ビューコート[®])の塗膜にかかわる研究に取り組んでいる。

「高反射タイプビューコート[®]」の開発では、照明器具などの反射板向けに用いる反射率を最大で98%まで高めた塗膜をさらに改良し、加工しやすさを高めることで適用用途の拡大を進めている。

「新日鉄は多様な領域の基礎研究に取り組んでおり、その道を極める研究者と社内議論し、互いの技術レベルを高め合えることが刺激になっています。またグローバルな情報収集・発信にも力を入れていて、国際学会での発表や欧州での現地技術調査も経験しました。今後さらに研究領域を広げ、社会ニーズを踏まえたビジョンを持って研究開発を進め、お客様へ新商品・ソリューションの提案をしていきたいですね」



高反射タイプビューコート[®](左)と一般照明用鋼板を用いた室内モデル。同じ明るさの蛍光灯でも室内の明るさに大きな違いがある。